

言語景観に関する社会言語学的基礎研究

彭 国躍 / 尹 亭仁

今年度は、韓国語の言語景観研究に関連して、日本における言語景観が、韓国語教育に活用できないかを具体的に検討している。その一環として横浜駅で採集した基本語彙、とりわけ「東」「西」「南」「北」という方角を表す単語の提示の仕方とその活用について模索している。〈図1〉は、大きい駅ではよく目にする「東口」と「西口」の案内表示である。日本語ではいずれも訓読みである。韓国語では、「東口」が「동쪽 출구」、「西口」が「서쪽 출구」であり、日本語に訳すと「東側の出口」と「西側の出口」になる。

この1枚の写真から頻度の高い4語（東、西、出、口）と韓国の固有語1語（岻）の応用が可能である。「東」は2200字の漢字の中で日本での使用頻度順25位、「西」は342位、「出」は11位、「口」は133位である。韓国語の初級及び入門の授業では、〈図1〉を提示し、「東西南北」を教えている。日本語と違って韓国語は音読みのみなので「東西南北」に対応する「동서남북」を覚えてもらう。韓国の固有語の「岻」は発音が難しいため、初級レベルには出てこない単語であるが、〈図1〉の案内表示から容易に提示できるようになった。手書きで書かれているのは、「왼쪽(左側)」と「오

른쪽(右側)」であり、「岻(側)」を応用した単語である。

〈図2〉と〈図3〉は色の学習に用いられる信号号である。従来は「青信号」「黄色信号」「赤信号」から色の学習を促したが、〈図1〉を併用することにより、「左(側)に青信号があります」「右(側)に赤信号があります」の学習に役立っている。

11位の「出(출)」は、「出発(출발)」「出入(출입)」「出身(출신)」「出国(출국)」など、主に中級レベルのテキストに出てくる漢語の導入に用いることができる。133位の「口」は日本語にはない、家族の意味を持つ「식구(食口)」や「입구(入口)」「창구(窓口)」等の単語の学習に応用できる。

中国語の言語景観研究に関しては、すでに「近代上海言語景観の生態学的類型」「上海の都市形成期における言語景観」と「百年前頃の上海の言語景観の記述研究」という3つのテーマに関する論文を完成し、現在「消えた上海の歴史言語景観（1）一閉鎖型店舗の映像データの記録」というテーマでデータの収集作業を行っている。



〈図1〉東口・西口



〈図2〉青信号と左側



〈図3〉赤信号と右側